

活動記録書

開催日： 令和6年8月1日(木) 天候 晴れ	開催テーマ： 「鎌倉の祭りと行事を楽しむ」 松林宏 氏(鎌倉ガイド協会会員)
開催場所：金沢公会堂 多目的室	記入者：浜辺隆文
参加人数：会 員 30 名 準会員 5 名 計 35 名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>鎌倉では一年を通じてたくさんのお祭りや行事が行われている。今回は鎌倉ガイド協会の松林宏氏にその中でも以下の著名なお祭りの由来や行事内容について詳しくお話しいただいた。</p> <p>1) 龍口法難会（龍口寺・片瀬） 9月11日～13日 寺域一帯は鎌倉幕府の刑場があったところで、日蓮上人がとらえられここで斬首されそうになったが、江の島方面から満月のような光るものが飛来してまぶしくて刀を振り下ろすことが出来ず、危うく難を免れ罪一等を減じて佐渡島に流罪となったという。特に盛り上がりを見せるのが12日の夜で、境内には露店が立ち並び、纏、万灯が奉安され、法要が終わると名物の「首つなぎのぼたもち」が堂内にまかれる。老婆（棧敷の尼）が護送される日蓮に「黒ゴマをまぶしたぼたもちを捧げたところ奇跡的に処刑を免れた」という伝説が残されている。また、宝塔を造花で飾った万灯は、日蓮が亡くなるときに、庭の桜が季節外れの花を咲かせたという故事にちなむもの。</p> <p>2) 御霊神社（坂之下）例祭 9月18日 祭神：鎌倉権五郎景正 例祭の行事は坂ノ下地域の豊作、豊漁の祈願を込め子孫繁栄を願う祭りである。例祭神事後、境内での鎌倉神楽の奉納、町内の神輿渡御・面掛け行列が行われる。鎌倉神楽は「湯立神楽」・「湯花神楽」とも言われ、湯に浸した笹を振って湯をまき、この湯をかけられると無病息災の福を受けられるとする。神輿渡御は百人を超える行列で、中でも面掛け行列は「仮面風流（ふりゅう）」を今に伝える文化遺産として県の無形文化遺産に指定されている。面掛け行列の面は10面あり、爺、鬼、異形、鼻長、烏天狗、翁、火吹男、福祿寿、おかめ（はらみっと）、女（とりあげ）とあり観客を楽しませる。</p> <p>3) 十夜法要（光明寺・材木座）令和5年は10月12日～14日 光明寺は材木座にある浄土宗の大本山で第4代執権北条経時が建て良忠が開いた。十夜法要は鎌倉の年中行事の一つとして有名で境内に露店が立ち並び、秋の風物詩となっている。十日十夜にわたり不断念仏を唱え阿弥陀さまの慈悲に感謝します。「引声阿弥陀経・引声念仏」と呼ばれる独特の節回しでお経を唱え、優雅な雅楽の奉奏や稚児礼賛舞も奉納される。山門の楼上には釈迦三尊、四天王、十六羅漢が安置され、13日14日には山門が特別公開され、仏像拝観はもちろん、楼上からは材木座海岸、由比ヶ浜、富士山の眺望が楽しめる。</p> <p>4) 御鎮座記念祭（鶴岡八幡宮・雪の下） 12月16日 知承4年（1180年）頼朝が現在の地に鶴岡八幡宮を創建・遷宮したのを記念した祭りが御鎮座記念祭である。記念祭は頼朝が京都から入れた「宮人の曲」を始まりとし、頼朝が“神感の端相有り”と感激したものであり、それが今も伝わっていることになる。御神楽は民間の諸神社で行われる里神楽に対して、宮廷伝来の神楽である。神楽は3つの部分①神迎え、②神遊び、③神送りからなり、人長の舞、巫女の舞が奉仕される。一つの音を長く引き延ばして奏される神楽歌や、ゆったりとした舞からは悠久の時間の流れが感じられる。</p> <p>5) 大国祈禱会成満祭（長勝寺・材木座） 2月11日 日蓮宗の中山法華寺で行われる百日間の寒の大荒行を達成した修行僧たちが出身の寺に帰り着き檀信徒、寺の関係者達に成満を報告する。鎌倉では、大荒行明けの翌日12月11日に長勝寺で大国祈禱会成満祭が行われる。大荒行を成満した僧侶が頭から寒の水を浴び、荒行の一部を再現し、その後本堂内で読経の中で世界平和と徐厄開運を祈願する。</p>	
<p>参加者の状況・意見など</p> <p>連日の猛暑が続く中、今回は室内で、鎌倉の祭りや行事をスライドと実写動画でわかりやすく説明いただいた。ぜひ鎌倉のお祭りに足を運んでください。（祭りの日にちは配布の別紙一覽参照）</p>	
<p>次回の予定：</p> <p>・令和6年9月5日(木)10時 京急立会川駅改札口集合 品川歴史館を見学 学芸員による解説あり</p>	